



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

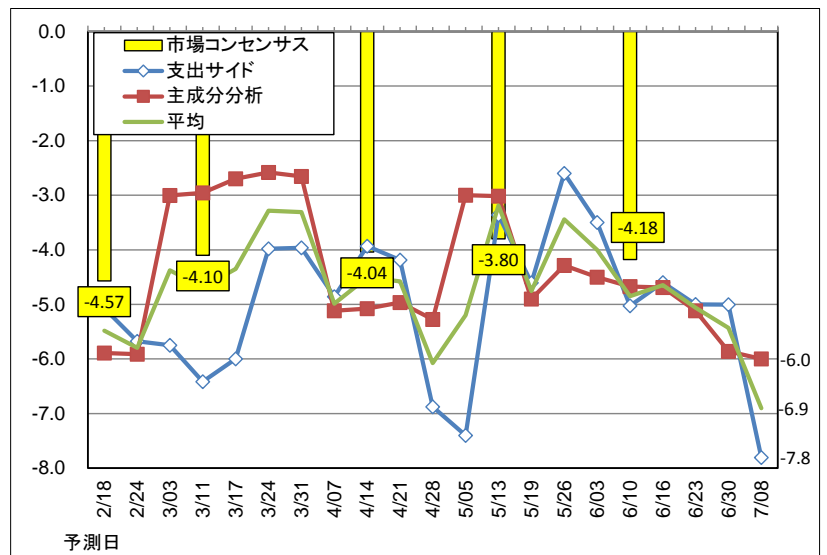
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年7月8日)

## ポイント

- ▶今回予測で更新されたデータは、6月の食料安定供給、5月の鉱工業指数、毎月勤労統計、消費総合指数、建築着工統計及び4月の建設工事費デフレーターである。これらは、民間最終消費支出、民間住宅、民間企業設備、民間企業在庫品増加、公的在庫品増加及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。
- ▶5月の鉱工業生産指数は前月比+0.5%上昇し、2カ月ぶりのプラスとなったが、4-5月平均は1-3月平均比-2.9%低い水準である。
- ▶財別出荷指数の4-5月平均を1-3月平均と比較すれば、耐久消費財は-7.5%、非耐久消費財は-5.3%低い水準となっている。
- ▶5月の消費総合指数は前月比+1.3%上昇し2カ月ぶりのプラスとなったが、4-5月平均は1-3月平均比-4.9%低い水準。今回は前回増税時に比して反動減が大きく出ている。
- ▶今週(7/8)の超短期モデル(支出サイド)は、4-6月期の実質 GDP 成長率を前期比年率-7.8%と予測。先週(-5.0%)から大幅下方修正。民間住宅、民間企業在庫品増加の予測値が先週から上方修正されたものの、民間最終消費支出、民間企業設備、公的在庫品増加の予測値は下方修正となったためである。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2014年4-6月期(%, 前期比年率換算)



## <意外と大きい民間消費の反動減、4-6月期は-7%超のマイナス成長へ>

今回予測で更新されたデータは、6月の食料安定供給、5月の鉱工業指数(速報値)、毎月勤労統計(速報値)、消費総合指数、建築着工統計及び4月の建設工事費デフレーターである。これらは、民間最終消費支出、民間住宅、民間企業設備、民間企業在庫品増加、公的在庫品増加及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。

5月の鉱工業生産指数は前月比+0.5%上昇し、2カ月ぶりの小幅プラス。結果、4-5月平均は1-3月平均比-2.9%低い水準となった。出荷指数を財別に見れば、耐久消費財は同-7.4%大幅低下し4カ月連続のマイナス、一方、非耐久消費財は同+4.0%と2カ月ぶりのプラス。4-5月平均を1-3月平均比で見れば、耐久消費財は-7.5%、非耐久消費財は-5.3%となっている。消費財について、今回は駆け込み需要が大きく出た分、反動が大きく出ている。

5月の消費総合指数は前月比+1.3%上昇し2カ月ぶりのプラス(前月-8.1%)となったが、4-5月平均は1-3月平均比-4.9%低い水準。今回と前回(1997年)で消費税導入と消費総合指数の推移を比較すると、4-5月は前回増税時に比して反動減が大きく出ている。4-6月期の前期からの落ち込みは前回に比して厳しいようである。結果、4-6月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から大幅下方修正された(前期比-2.9%→同-4.2%)。

今週(7/8)の支出サイドモデルは、4-6月期の実質 GDP 成長率を前期比-2.0%、同年率-7.8%と予測。先週の予測(-5.0%)から大幅下方修正となった。民間住宅、民間企業在庫品増加の予測値が先週から上方修正されたものの、民間最終消費支出、民間企業設備、公的在庫品増加の予測値が下方修正となった。4-6月期は純輸出(前期比+0.6%)が拡大に転じるが、内需が駆け込み需要の反動で大きく縮小(前期比-2.6%)する。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690